



朝の折り (1988年 天竜市立秋野不矩美術館蔵)

インドを愛し、美を謳いあげた秋野不矩 没後初の大回顧展

あきの ふく

秋野不矩展

— 創造の軌跡 —

2003年4月26日(土) - 6月8日(日)

開館時間=午前10時~午後6時(金・土曜日は午後8時まで)入場は閉館30分前まで
休館日=毎週月曜日(5月5日[月・祝日]開館、5月6日[火]休館)

観覧料=一般1200(900)円/大・高生900(700)円/中・小生500(400)円

※かっこ内は前売り及び20人以上の団体料金
※兵庫県内在住の65歳以上の方および県内在住の障害者の方は半額になります
※県内在住・在学中の小・生はコロンカードの提示により無料
※常設展は別途料金(本展とあわせて観覧する場合は割引)

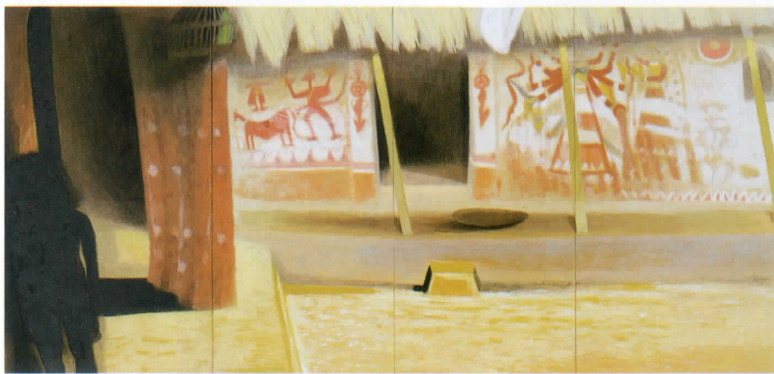
主催=兵庫県立美術館・毎日新聞社・NHK 神戸放送局
後援=兵庫県・兵庫県教育委員会・神戸市・神戸市教育委員会・スポーツニッポン新聞社
協賛=(財)伊藤文化財団 協力=天竜市立秋野不矩美術館
お問い合わせ=毎日新聞社総合事務局事業部 TEL.06-6346-8391(午前10時~午後6時 土日祝日を除く)
兵庫県立美術館 TEL.078-262-0901



紅装 (1938年 京都市美術館蔵) 4月26日~5月18日展示



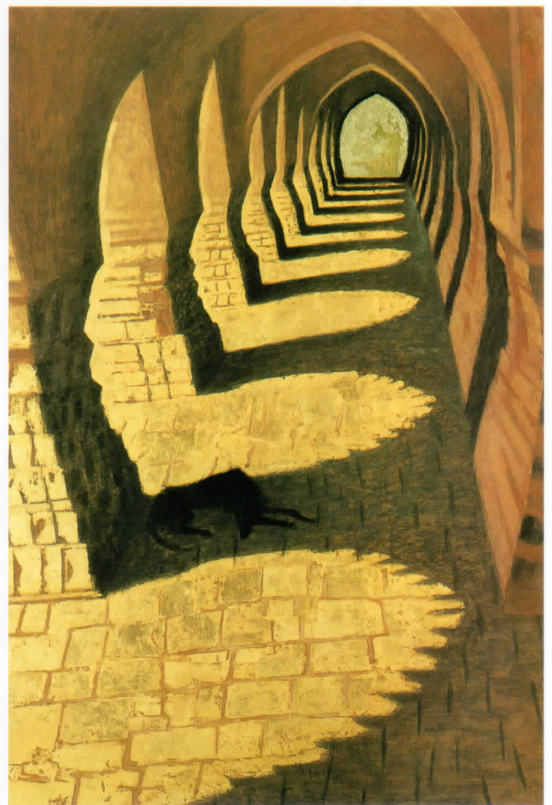
少年群像 (1950年 天竜市立秋野不矩美術館蔵)



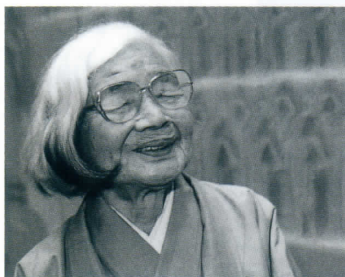
土の祈り (1983年 京都国立近代美術館蔵)



犏牛 (1995年 天竜市立秋野不矩美術館蔵)



廻廊 (1984年 静岡県立美術館蔵)



2001年10月、93歳で逝去した文化勲章受章の日本画家、秋野不矩の没後初の大回顧展を開催します。秋野不矩は、1908年、静岡県天竜市に生まれ、1929年、京都に出て日本画を学びます。5男1女を育てながら作品を発表し続け、1948年、仲間と共に、「創造美術(現・創画会)」を結成、戦後の日本画の発展に大きな役割を果たします。1962年、日本画の客員教授として初めて訪れたインドでの体験が決定的な転機となり、以後、インドの風物を主題とした作品を描くようになります。

インドの豊穡で過酷な自然と対峙して生きるものたくましさや美しさをみずみずしい色彩とダイナミックな筆遣いで表現し、生命力あふれる独自の画風を作り上げました。悠久の時の流れを感じさせる大地、厳しい自然に生きる動物たち、敬虔な人々などを描いた秋野不矩の作品は、日常の喧噪の中で生きる我々が忘れがちな自然と人間との共存、生命の重さといった根源的な問いに立ち向かう契機を与えてくれます。

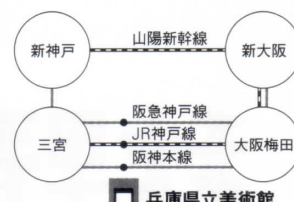
本展では、インドをテーマとした作品を中心に、初期から晩年にわたる代表作約80点をはじめ、天竜市立秋野不矩美術館が所蔵する門外不出の7メートルに及ぶ大作「オリッサの寺院」が特別出品されるほか、あまり公開されたことのない素描、下絵、絵本原画約130点も併せて展示し、秋野芸術の全容を紹介します。

記念講演会

5月3日(土・祝)
「秋野不矩の人と作品」
木村重信(兵庫県立美術館館長)

5月17日(土)
「不矩さんのこと」
小池一子(武蔵野美術大学教授)

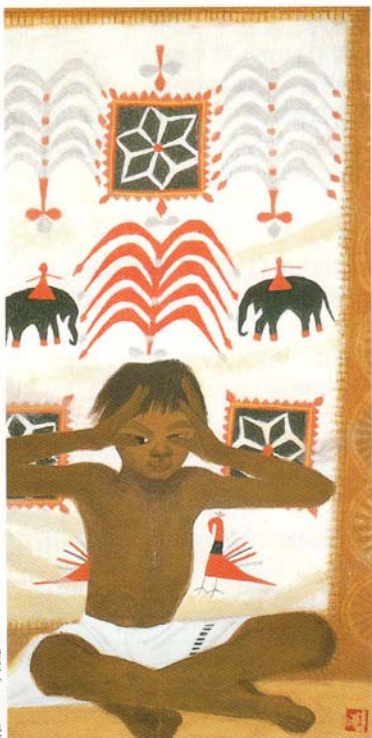
※各回とも午後2時より当館ミュージアムホールにて(聴講無料)



兵庫県立美術館
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
Tel.078-262-0901
<http://www.artm.pref.hyogo.jp>
交通案内
阪神岩屋駅 徒歩約8分
JR灘駅 徒歩約10分
阪急王子公園駅 徒歩約15分
地下駐車場 乗用車80台

お問い合わせ 毎日新聞社総合事業局事業部 Tel.06-6346-8391 兵庫県立美術館 Tel.078-262-0901

常設展示招待券
秋野不矩展会期中ご利用いただけます



村重(1987年)

インドを愛し、美を謳いあげた秋野不矩
没後初の大回顧展

あきの ふく

秋野不矩展

— 創造の軌跡 —

2003年4月26日(土) - 6月8日(日)

開館時間 = 午前10時 ~ 午後6時(金・土曜日は午後8時まで) 入場は閉館30分前まで

休館日 = 毎週月曜日(5月5日[月・祝日]開館、5月6日[火]休館)

主催 = 兵庫県立美術館・毎日新聞社・NHK 神戸放送局

後援 = 兵庫県・兵庫県教育委員会・神戸市・神戸市教育委員会・スポーツニッポン新聞社

協賛 = (財)伊藤文化財団 協力 = 天竜市立秋野不矩美術館